

活動分野	森の保育		
タイトル	夏を見つけよう		
実施日時	平成 29 年 8 月 9 日 (水) 9 時 30 分～11 時		
実施場所	野田市三ツ堀里山自然公園		
受講者	26 名 (園児名 24 人 保育士 2 名)	F I C 会員他スタッフ	2 名

活動の内容 担当 龍門、植村 (記録)

長寿台風 5 号がやっと去り久しぶりの夏空。気温は 35 度。体調管理に注意。セミは鳴き、バッタは跳ね回る夏本番。草地に足を踏み入れた途端に跳ねだすバッタに歓声上がる。年中のスズランさん達も 7 月よりたくましくなっている。ドラゴン先生の体操を終え 2 班に分かれて出発。前回もいたノシメトンボ達の止まるロープ。「おしめトンボ」じゃないよといらぬ一言も。天高く伸びたタケノコを見て子ども達が「もうタケノコじゃないね」。アブラゼミとミンミンゼミの声を聴き分ける。ツユクサを見つけてスタンプだ！と手に青いハンコを押しだす・・・数が少ないので取り合いに。その先にオシロイバナがたくさん咲いていたのでこれもできると夢中になって爪を染め出す女の子達を制して草っパラの広場に到着。お茶を飲む。大人の膝丈まで伸びた草の中を 2 列で行進して道を作る。草刈りをした部分でバッタ取り。短時間でも捕まえるのがどんどん上手になる。怖くて捕まえられない子も「触ってみる」と言って撫でている。帰りは自分たちの作った草の道に戻る。百日紅の木肌に触って「ほんとにツルツルだ。」「日なたは暑い、木陰は涼しい」と小道を歩き小川へ。大きくなったウシガエルのオタマジャクシがたくさんいて足も出ている。「オタマジャクシの保育園だね」池の中から「ゴーツゴーツ」親ウシガエルの声も聞こえる。「私の子をいじめないでって言ってるのかな」と言ったら神妙な顔になる子ども達。田んぼの実った穂を見てうれしそうに「もうすぐ食べられるね。」小学生の作ったカカシ達の中にひとつ怖そうなのがあり、子ども達は十分怖がっていました。お茶休憩。暑いので遠回りの林のルートはやめて日陰の道に戻ることに。セミの抜け殻をみんなの分 12 個集めようと道々探して歩く。見つけられないと言って泣く子に「泣いていたら見つけられないよ」というと泣き止んで探して get、うれしそう顔。自分で採ったものをどうしてもお友達に貸してあげられない子。卒園までにはできるようになりますようにと頭をなでる。大きくなった柿の実、クルミを見上げる子ども達。涼しい杉木立の中を歩く。ふかふかの土壌。みんなで杉の葉の匂いを嗅ぐ。「これは昔の木の匂いだね」という子。どんな思い出があるのか？ 杉林でカブトムシを発見した子も。



体操した広場に戻り、またひと遊びする子ども達。あっという間の 1 時間でした。捕まえたバッタを放し、集めたセミの抜け殻を体操服につけてあげる。怖がっていないという子も。もう保育園に帰ってご飯を食べようよと言うとみんな満足してバスに乗り込みました。